

BIM 関連用語の説明

用語	説明
BIM(ビム)*	Building Information Modeling/ビルディング・インフォメーション・モデリングの略称。 3D の建築モデルを使って、建設プロジェクトにおける設計情報と建材や設備の属性情報を一つのデータに集約管理するソリューション。 情報の見える化が特長のひとつである BIM は、建築分野の生産性向上に有効だとされるフロントローディングを実現するカギとも言われている。 【メーカーにとって】 BIM は、建設プロジェクトの早期段階でのデジタルスペック活動のツールになりえます。急速に広がるデジタル経済において、BIM はデジタル上での建物全体、個室すべての建材情報の集合体といえ、BIM による設計モデルにいかにか自社製品を盛り込めるかが、リアルな市場でのシェアにも影響しうる時代になりつつある。 【設計士、設計/建設会社、建物管理業者にとって】 建設プロジェクトにおける設計、施工、維持管理などに関する情報の一元管理とタイムリーな情報共有を可能にするため、工事受発注者双方における業務効率化など、日本の建築業界の生産性を大きく向上させるものとして期待されている。
BIM オブジェクト	BIM を構成する最小単位の BIM データのこと。 建材や設備などの製品をデジタルモデル(3D)化し、その中に寸法や重量などの数値情報や仕様・性能・材質などの属性情報を含まれている。
フロントローディング	建設プロジェクトの前段階(フロント)である設計工程に負荷をかけ(ローディング)、設計内容を充実させ精度を高める手法、またはそのような考え方。
属性情報*	BIM に入力された、オブジェクトの性能・品質・法令等に関する情報のこと。 例)寸法、重量、仕様、性能、分類、製品型式、製造者等 ただし、設計・施工だけでなく、各種のシミュレーションに必要な情報、完成時引渡しに必要な情報、運用段階の情報を加えて、拡張することができる。 BIM には属性情報とともに 2D の形状、プロジェクト管理情報等が含まれており、BIM 利用の拡大には、これらの標準化が重要。
BIM データライブラリーサービス	BIM を使った 3D 設計など、三次元で建設プロジェクトのプロセス管理を効率的に行う手法の一つとして、使用頻度の高いオブジェクトをあらかじめパーツとして作成し、建築家、エンジニア、設計者などの BIM ユーザー(利用者)に提供するサービス。
BIMobject Cloud® (ビムオブジェクトクラウド)	BIM オブジェクトを登録ユーザーに無償提供する、世界最大のプラットフォームです。サイトには設計時に使用する BIM オブジェクトを検索しやすいように、22 カテゴリーに分けて掲載。 【設計士にとって】 会員登録(無料)をするだけで、気になる BIM データを無料ダウンロード(数量制限なし)できます。物件受注前の施主向けプレゼン資料、3D 設計図面への落とし込みなど、使い方次第で、業務効率アップはもちろん想像力アップにも繋がります。 ※2020年3月末時点で約 1800 社の BIM オブジェクトを掲載 【メーカーにとって】 自社製品を BIMobject Cloud®に掲載することで世界中のユーザーに 24 時間アプローチすることができます。 ※2020年3月末時点での登録ユーザー数は 180 万人

(*)国土交通省資料「建築 BIM の将来像と工程表(案)【修正版】(第 3 回建築 BIM 推進会議 資料 2-1)を参照